

## ダビデ家の不祥事

(サムエル13・1〜39)

### 一、ダビデの罪により

13章以降、主の御心を損なったダビデに対して、預言者ナタンが語った言葉が実現して行ったという形で、著者(編集者)の筆が進められていきます。

13章1節をご覧ください。〈その後のことである。ダビデの子アブシャロムにタマルという名の美しい妹がいたが、ダビデの子アムノンには彼女を恋していた。〉とあります。聖書より、ダビデには10人以上の妻がいたことが分かっています。最初の妻となった、サウル王の娘ミカとの間には子供がいませんでしたが、二番目以降の妻との間にはそれぞれ息子娘たちがいました。息子たちは王位継承候補者でした。一番近いのはアムノンでした。長男だったからです。このアムノンが、13章に登場する問題多き人物です。彼には、異母きようだいで、アブシャロムとタマルという非常に美しい男性と女性がいました。

### 二、アムノンの不祥事

ダビデの長男であったアムノンは、異母きようだいのタマルを恋してしまいました。2節です。〈アムノンは、妹タマルのために、苦しんで、わずらうようになった。〉というのは、彼女が処女で

あって、アムノンには、彼女に何かするということとはとてもできないと思われるたからである。〉とあります。かつてダビデ王はヘテ人ウリヤの妻バテ・シエバが非常に美しかったため、彼女を召し入れて関係を持つてしまいました。息子も同じような弱さを持つていました。すると、3節です。〈アムノンには、ダビデの兄弟シムアの子でヨナダブという名の友人がいた。ヨナダブは非常に悪賢い男であった。〉アムノンとヨナダブはいとこでした。そのヨナダブは〈非常に悪賢い男であった〉と解説されています。さらに、ヨナダブはいとこでありながら「友人」と紹介されていますから、アムノンと近い関係にあったことが分かります。ヨナダブはアムノンに語りました。4節です。〈彼はアムノンに言った。「王子さま。あなたは、なぜ、朝ごとにやつれていくのか、そのわけを話してくれませんか。」アムノンは彼に言った。「私は、兄弟アブシャロムの妹タマルを愛している。〉こうして、ヨナダブはアムノンに悪知恵を吹き込みます。アムノンはヨナダブの言うとおり、仮病を装いました。王であり、父でもあるダビデ王が見舞いに来ると、妹のタマルを遣わし、タマルの世話になりたいと懇願します。父ダビデは息子アムノンの願いを聞き入れ、タマルに、兄アムノンの家に行って世話をするように伝えました。タマルは、兄アム

ノンが抱いていた野心を知ることなく、アムノンの家に行き、兄の要望するパン菓子を焼きました。すると兄アムノンはそこにいる者たちを外に出しました。兄の様子がおかしかったのにタマルはそれに気づくことなく、兄に言われるまま、自分が作ったパン菓子を兄アムノンの寝室に運びます。すると、アムノンはタマルに襲いかかり、力尽くで、タマルを犯してしまいました。ところが、その後のことです。15節です。〈ところがアムノンは、ひどい憎しみにかられて、彼女をきらった。その憎しみは、彼がいただいた恋よりもひどかった。アムノンは彼女に言った。「さあ、出て行け。〉これを読むと、読者は理解不能に陥ります。ですが、サムエル記は何も解説を加えていません。この出来事により、アムノンは己が欲望のままに動く、何の責任も取らない人物であることが露呈してしまいました。問題は、この事件を知ったダビデ王の対応です。21節です。〈ダビデ王は、事の一部分始終を聞いて激しく怒った。〉怒っただけ、それ以上、何もしませんでした。タマルはどうなったでしょうか。20節に〈タマルは、兄アブシャロムの家で、ひとりわびしく暮らしていた〉と書かれています。

### 三、犯した過ちのゆえに

なぜダビデは激しく怒っただけで、処罰しなかったのでしょうか。それは、

かつて自分も同じことをしたからなのではないでしょうか。自分が犯した過ちのゆえに、息子を神の前に処罰することができなかったものと思われれます。これが原因となって、次の大きな問題に発展して行きます。タマルの実の兄アブシャロムは、妹タマルが辱められ、人生を台無しにされたことに心を痛め、復讐を考えます。その実行日は二年後にやっつてまいりました。23節です。〈13・23〉 こうして、アブシャロムの兄弟全員が祝いの集いに集まったときのことです。アブシャロムは、部下たちに事前に指示をしていました。28節です。〈13・28〉 アムノンは殺害されました。その後、どうなったでしょうか。37節をご覧ください。〈13・37〉 ダビデが〈いつまでもアムノンの死を嘆き悲しんでいた〉ところに、ダビデの情の深さがあります。その愛情は、犯した過ちをなござりにする愛情であり、問題を含んでいます。しかしダビデにはどうすることもできません。また、アブシャロムが兄弟を殺害したことについても、どうすることもできません。自分も、かつて犯した姦淫の罪を覆い隠すために、不倫相手の夫ウリヤを殺害したことがあったからです。こうして、アブシャロムの罪を処罰しなかったことのゆえに、さらに問題が大きくなり、自らの力ではどうすることもできない領域に迷い込んで行きました。